2019年　春季号

未来(あす)のために、現在(いま)を変える

鶴翔

Kaku Shou

つるほ庸介
後援会会報　No.33
〒640-8323
和歌山市太田3丁目7-12　ヤマイチ第一ビル1F
TEL:073-472-3311　FAX:073-472-3334
E-mail:info@tsuruho.com

新しい時代の幕開けに

参議院議員　鶴保　庸介

「平成」も残すところ1ヵ月足らずになりました。4月1日には新元号「令和」が発表され、5月1日には今上天皇がご退位、皇太子徳仁親王がご即位なさり、新しい元号のもとで、新しい時代の幕開けということになりました。

「平成」という時代をどのように総括するか。そして「令和」という時代にどうつないでいくか。これについても新聞やテレビ等で様々な立場の方が見解を述べておられ、また今後、専門家による研究も進んでくるかと思います。いずれにしても、

「明日は、今日よりも、もっと良くなる」

多くの人がそんな希望を持てる時代にしていかなければなりませんし国会議員の一人として、その重責の一端を担っていることを改めて感じているところです。

さて、この稿を起こしている中で国会では予算の審議が佳境を迎え、3月27日に政府原案どおり今年度予算が成立しました。これからはいよいよ各委員会が本格的に動き始めます。

現在、私は院において「資源エネルギーに関する調査会」の会長職に就いており（早くも在任2年になります）、こちらについては、引き続き、立法府の立場で、今後の日本のエネルギー政策について、予断を持たずに議論する場にしていきたいと考えています。調査会では、国交省管轄のダムによる水力発電をもっと開発してはどうか？という声も挙がっています。

ただ今回、皆さんにご報告したいことの多くは、国会以外の場での活動といえるかもしれません。例えば捕鯨についてです。

（2ページへつづく）

プロフィール

鶴保庸介（つるほようすけ）
参議院議員（和歌山県選出、自由民主党）
昭和42年（1967）2月5日大阪府生まれ。東京大学法学部卒
○衆議院議員秘書を経て平成10年7月参議院選挙初当選、平成14年国土交通大臣政務官（2期）、平成18年参議院厚生労働委員長、平成22年参議院決算委員長、平成23年参議院議院運営委員長、平成24年国土交通副大臣、平成26年参議院自民党政審会長、平成28年内閣府特命担当大臣　○参議院資源エネルギーに関する調査会長、自由民主党政務調査会観光立国調査会事務局長

おもな内容

- 「問題意識」を政策に！
- 資源エ調査会長として産総研の視察も
- ドローンや自動運転の実証実験を！
- ドイツの「インダストリー4.0」等視察
- 次の10年、20年に向かい…明日を語る会

（1ページからつづく）

IWC脱退に理解を

捕鯨問題については、これまで何度もご報告してきましたが、昨年末に日本はIWC（国際捕鯨委員会）からの脱退を決断致しました。

IWCとは元々、鯨類の持続的な「活用」と「保護」を目的として設立された国際組織で、条約にもその旨が明記されています。しかしながら、私も出席した昨年のブラジルにおける総会では、反捕鯨国が提出した「フロリアノポリス宣言」が採択されてしまいました。

この宣言は、これからIWCは鯨類の「保護」だけを目的とした組織に生まれ変わろうというに等しいもので、これを受けて日本はIWCから脱退することを決断するに至ったのです。

それに対して一部メディアの中には、松岡洋右首席全権が国際連盟を脱退して国際社会での孤立を深め、その後戦争への道を歩んでいった歴史を彷彿とさせる、などといった荒唐無稽な論調も散見されましたが、今回の脱退は、国際連盟のそれとは全く次元の違う話です。アイスランドやカナダはすでにIWCを脱退していて、アイスランドは一度脱退してからもう一度入り直しているくらいです。さらに「引き続きオブザーバーとしてIWCに協力し続ける」「南氷洋での捕鯨は中止し、EEZ（排他的経済水域）内に限る」いう日本の方針に対して、オーストラリアやニュージーランドといった反捕鯨国から、歓迎する（welcome）という表明もありました。IWC脱退によって戦争状態になる、と言わんがばかりの論調とは、まるでかけ離れた状況にあることは、わかっていただけると思います。

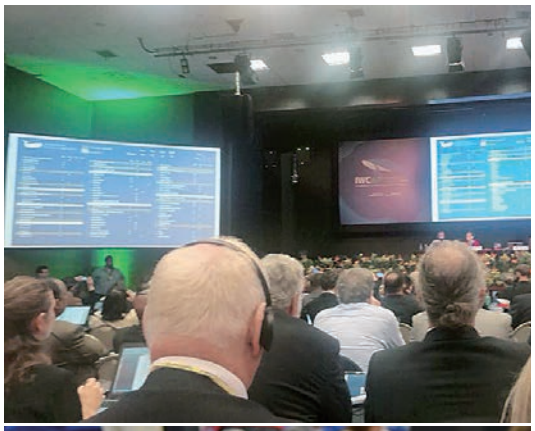
商業捕鯨の成果によって

日本は今年の7月から商業捕鯨を再開します。それによって、狂信的な反捕鯨国が難くせをつけてくるでしょう。それに対抗するためにも、多くが捕鯨賛成国であるアフリカやカリブ海の諸国などと連携をとって現IWCにかわる組織づくりも視野に入れ、国際社会の理解を得ていく努力が必要になってくるでしょう（昨年末には私もアフリカのギニア共和国を訪れ、日本の方針を説明、理解を求めてきました）。

また、それらを行ないながら引き続きIWCにはオブザーバーとして参加し、科学的調査には協力する。そうしている間に、長い間供されることのなかったクジラ肉が、また庶民のものになって戻ってくることを期待しています。美味しくて安い鯨が手に入るのですから、もっと国内の理解も深まってくるのではないでしょうか。ですから、前述のような荒唐無稽な論難、批判に世論が惑わされることのないように願うとともに、「古式捕鯨」の伝統文化を受け継ぐ町や人びとを擁するわれわれ和歌山県人は、世論が一時的にゆがめられるようなことがあっても、それに迎合することなく、あくまでも「正義」を主張し続けることを期待するのです。

ドローンが拓く未来

これからの未来を見据えた明るい話もしなければなりませんね。



IWCの議論は徐々に「反捕鯨」目的の空疎なものに（上は昨年のブラジルの総会、下は2014年9月のスロベニアの会合）

ドローンを使用した貨物輸送に向けた実証実験が日本各地で実施されています。国家戦略特区指定のものから民間企業主導のもの、はたまた大学が研究で行なうものなど様々でその取り組みが加速化しています。私も昨年、福島県において日本郵便（株）が行なっている実証実験を視察してきました（6面参照）。

小高郵便局（南相馬市）～浪江郵便局（浪江町）の9㎞の距離をドローンで荷物配送するもので、①目視外飛行を認める②補助者なし、の2点で、より社会実装に向けて前進した実験といえるものです。

転げ落ちてしまいそうな細くくねくねと曲がった農道を軽トラックで行き来するような光景は和歌山では

さして珍しくありません。足腰の弱ったお年寄りが気軽に買い物に行くこともできない不便極まりない状況も当たり前のようになっています。

この現状を何とかしようと、タクシーなどで貨客混載（貨物と旅客の輸送を一緒に行うこと）といった政策も進めてはきましたが、それにも限界があります。

ドローンの社会実装に向けては、私もこれまで様々な方からの協力も得ながら取り組んできました。例えば、大日本猟友会はとても協力的で、今や有害鳥獣の生息数把握のためにドローンを活用して成果をあげています。国土交通副大臣時代に推進したi-Constructionで、これまで人の手で何日もかけて行なっていた測量を、ドローンによって半日ぐらいで仕上げる工事事例も数多く出てくるようになりました。また、昨今、残念ながら自然災害が頻発していますが、その際、被災状況の把握にドローンが活用されていることは多くの方がご存じだと思います。

ドローン活用がこのように進む一方、荷物の配送ということになるとまだ道半ば、あるいは緒についたばかりの状態です。荷物は当然、人のいるところに届ける場合が多く、より安全性が求められるからです。

ただ、私は和歌山のような山の多い中山間地ではドローンはぴったりの輸送機だと考えてきました。もし、荷物を積んだドローンが住宅や人の頭の上を飛んで危険だというのであれば、川の上など、危険でない空路を指定するなど、方法はいくらでもあります。

どこに行っても人が歩いている都心部と、住宅もまばらにしかない地方の山間地で同じ考えをする必要など、どこにもないはずです。

今の日本は様々な業界において人手不足が深刻な問題で、経営は黒字でも「人手不足倒産」を余儀なくされるような会社（例えば運送会社）が後を絶ちません。

今年から、外国人労働者の受入れを拡大する新しい制度が始まりますが、科学技術の力を借りて人手不足を補えるものなら、それに越したことはありません。その最たる例の一つがドローンなのです。生産性向上に資する新技術の実装化に向けた取組みを一層加速させねばならないことは間違いのない事実です。

バス自動運転実証実験の出発式（2017年６月石垣市）

さらに沖縄振興にも

最後に、沖縄についても少し述べさせて下さい。沖縄担当大臣を辞した後、今も定期的に沖縄を訪問し、地元の実情や生の声を聞くことを欠かさず行なっており、近いうちにまた訪れる予定です。

先日、沖縄担当部局より嬉しい報告もありました。私が大臣時代に取り組んだ那覇港から北部地域への高速船の実証実験に関連し、その後、民間企業による定期便の就航が実現したというのです。

渋滞緩和、自動運転バスの実証実験、ＩＣＴを活用した離島での遠隔授業、沖縄独自の給付型奨学金等々挙げ始めればキリがありませんが、在職中にまいた〝種〟が少しずつ芽を出し始めてきています。

沖縄振興については、地元和歌山県と同じような気持ちで、これからもしっかり取り組んでいきたいと考えています。

鶴保議員の活動日誌

十月

1日　ドイツ・デンマーク参議院海外派遣（科学技術・イノベーション政策）
2日　ドイツ・デンマーク参議院海外派遣（科学技術・イノベーション政策）
3日　ドイツ・デンマーク参議院海外派遣（科学技術・イノベーション政策）
4日　ドイツ・デンマーク参議院海外派遣（科学技術・イノベーション政策）
5日　ドイツ・デンマーク参議院海外派遣（科学技術・イノベーション政策）
6日　ドイツ・デンマーク参議院海外派遣（科学技術・イノベーション政策）
7日　ドイツ・デンマーク参議院海外派遣（科学技術・イノベーション政策）
8日　ドイツ・デンマーク参議院海外派遣（科学技術・イノベーション政策）
9日　ドイツ・デンマーク参議院海外派遣（科学技術・イノベーション政策）
10日　会館にて面談・レク
11日　会館にて面談・レク
12日　リトアニア共和国サウリウス・スクバルネリス首相との昼食会

国政報告

鶴保庸介・参議院
資源エネルギーに関する調査会長

「問題意識」を政策に！

「観光立国」「革新的技術の社会実装化」「防災」等々に取り組む

昨年、国会活動20周年を迎え、さらなる飛躍が求められている鶴保庸介参議院議員――。これまでの内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策、クールジャパン戦略、科学技術政策等）や国土交通副大臣などとして得てきた経験・知見を活かしながら現在、参議院資源エネルギーに関する調査会の会長として、また、自民党政務調査会の観光立国調査会の事務局長、外国人観光客に対する医療PTの幹事長、さらに参議院の重要事項調査議員団（ドイツ等に派遣）の団長などとして、さまざまな課題に意欲的に取り組んでいます。それぞれの場においてリーダーシップを発揮し、旧弊、前例主義の壁を突き崩しながら、問題意識を政策に、そしてその実現へとつなげるチャレンジ、取り組みを行っています。

その活動の一端を報告します。

（写真上は、資源エネルギーに関する調査会の会長として産業技術総合研究所視察後の研究者との意見交換会＝次ページ参照）

13日　海上保安友の会役員会、国会活動20周年を祝う会（田辺市）

14日　京奈和関空連絡道路の集いin紀の川市
15日　第25回鉄道の日祝賀会、フェローフォーラム
16日　会館にて面談・レク
17日　ロシア訪問勉強会、科学技術・イノベーション戦略調査会、EPIA懇親会
18日　新潟市長選応援
19日　会館にて面談・レク
20日　カガーマン博士とのフォローアップミーティング
21日　観光立国調査会ロシア視察
22日　観光立国調査会ロシア視察

23日　観光立国調査会ロシア視察
24日　本会議、常任委員長懇談会、国会開会式
25日　会館にて面談・レク
26日　仁坂吉伸決起大会
27日　上富田町制60周年記念式典
28日　中曽根康隆先生披露宴

産総研つくば本部視察
資源エネルギー調査会

鶴保会長の参議院資源エネルギーに関する調査会は、今国会では2月に下記質疑を始めるとともに同月14日、つくば市の国立研究開発法人産業技術総合研究所（つくばセンター）を視察しました。

産総研は、わが国最大級の公的研究機関です。「技術を社会へ」をスローガンに掲げ、産業、社会に役立つ技術の創出と革新的な技術シーズの実用化、事業化への「橋渡し」機能にも注力しています。

産総研には、「5研究領域」「2総合センター」がありますが、今回はそのうちの「エネルギー・環境」領域と「地質調査総合センター」を視察。企業名を冠した連携研究室（冠ラボ）で、太陽光パネルの最先端技術の開発状況やメタンハイドレートの説明を受け、また、実際に燃焼実験などを体験した後、情熱を持って研究開発に取り組んでいる研究員のみなさんとの意見交換も行いました。

ゴーグルをつけてメタンハイドレート燃焼実験など、さまざまな先端技術の開発研究現場を視察、体験。その後の意見交換、議論も盛り上がりました

産総研で行われているような世界レベルの革新的技術の研究・開発と実用化への取り組みが進まなければ、わが国の未来は開けないでしょう。ドイツの産業政策（8、9ページ参照）などと比べても、やはり政治家もそれを自覚して、さらにそれらを推進する役割をしっかり担う必要があることを痛感させられる視察となりました。

地球環境や原子力問題
◆調査会の質疑

第198回国会（1月～常会）における調査会の質疑は以下のとおり。

第1回（2月13日）「原子力等エネルギー・資源に関する調査」（参考人：公益財団法人地球環境産業技術研究機構システム研究グループ・秋元圭吾主席研究員、東京大学公共政策大学院・有馬純教授、NPO法人気候ネットワーク・平田仁子理事）

第2回（同月20日）「原子力問題に関する件（原子力規制委員会の活動状況について）」（磯崎仁彦経済産業副大臣、政府特別補佐人：原子力規制委員会・更田豊志委員長）

第3回（2月27日）「新たな時代に向けた我が国の資源エネルギー像」（資源エネルギーの安定供給）（参考人：九州大学大学院工学研究院・渡邊裕章准教授、横浜国立大学大学院工学研究院・大山力教授、京都大学大学院経済学研究科・安田陽特任教授）

29日　会館にて面談・レク
30日　本会議、物流倉庫振興推進議連、国対正副委員長と各委員会委員長打合せ
31日　本会議、韓国大学新聞主催「2018UCN専門大学PRESIDENT SUMMIT」

十一月

1日　会館にて面談・レク
2日　公共事業品質確保に関する議連総会
3日　第30回紀州漆器まつり・第15回家庭用品まつり合同開会式、木綿家住宅と絽刺し展、お悔やみ
4日　地元挨拶回り
5日　近畿自動車道紀勢線建設促進期成同盟会意見交換会
6日　沖縄振興調査会及び美ら島議員連盟合同会議幹部会、トルコ共和国外務大臣との昼食懇談会、全日本不動産政策推進議連本会議
7日　拡大水産役員会、住宅土地・都市政策調査会、東京パーティー
8日

国会報告

政策研究&推進

ドローンの荷物輸送を視察
国内初　福島の2郵便局間

小型無人機ドローンを使った貨物輸送の実験などが各地で始められていますが、鶴保議員は冒頭で記しているとおり、昨年11月13日、日本郵便株式会社が実サービスとして初めてドローンを導入した現場を視察しました。福島県の小高郵便局（南相馬市）～浪江郵便局（浪江町）の9キロ間で、同月7日から始められた補助者を配置せずに「目視外飛行」させる日本初の荷物輸送の試みです。

住宅地の上空を含むルートでの定期的な事業用ドローンの飛行としても国内初で、住宅地の自治体の理解があっての実証実験です。

日本郵便でドローン導入を進めている郵便・物流事業企画部の畑勝則部長や上田貴之課長から、ドローン操縦の実際や、当面は郵便局の業務に使う書類など軽量（2キロ以内）の荷物を第2・3週の火～木曜日、1日最大2往復飛ばすなどの説明を受けました。

飛行する高度は60メートル以下、時速約54キロ以下で、片道約15分。これまで軽自動車で約25分かけていたので、時間も人手も節減されることになります。人手不足が深刻な山間部などでの業務の効率化に確実に貢献するモデルになるはずです。

鶴保議員は、これまでも何度も取り上げているように、ドローンや自動車の自動運転などの最新の科学技術を社会に導入する、社会実装化の取り組みや、その後押しを積極的に行ってきました。ドローンも、安全検査や測量などに活用されてきたものの、荷物の配送などでは安全性の問題などから出遅れていました。それがこうして実用化に大きく踏み出したのです。

また、日本郵便は自動運転の導入にも積極的で、都内などではすでに実用化の実験を進めています。

ドローンも自動運転も、実際の社会生活への導入には、規制緩和や事故が起きた時の責任の所在など、法の整備も必要です。

鶴保議員は、「人手不足を補うためにも、ドローンの実装化などに向けた取り組みは加速させなければならないと考えています。今回の視察もそうですが、そのために必要なことは、どんどん進めていく決意です」と力強く語っています。

荷物を運ぶドローンを視察
（操作する日本郵便の上田貴之課長。
右は畑勝則部長＝上、ドローンを手に＝下）

BRT自動運転始まる
イニシアチブをとった施策

近い将来の〝足〟として鶴保議員が注目してきた一つがBRTで、そ

9日　自民党海事立国推進議連内航部会フェリーの振興を考える小委員会
10日　新市立伊勢総合病院竣工記念行事
11日　東京挨拶回り
12日　会館にて面談・レク
13日　ドローン配送視察（福島県小高郵便局～浪江郵便局）
14日　農業農村整備の集い、会館にて面談・レク
15日　厚労委員会、第58回全国大会に係る県商工会関係者の懇親会
16日　会館にて面談・レク
17日　地元挨拶回り
18日　地元挨拶回り
19日　地元挨拶回り
20日　厚労委員会、会館にて面談・レク
21日　会館にて面談・レク
22日　厚労委員会、第5回世界遺産サミット交流会（姫路）
23日　和歌山県知事選個人演説会
24日　地元挨拶回り
25日　地元挨拶回り
26日　地元挨拶回り
27日　厚労委員会、自民党賃貸住宅対策議連、伊都郡町長と県選出国会議員との懇親会
28日　自民党自動車整備議連総会、本会議、日本船主協会「海賊対処活動に対する感謝の集い」
29日　観光立国調査会、厚労委員会、近畿ブロック両院議員会懇親会
30日　流通懇話会、本会議

十二月

1日　地元挨拶回り
2日　地元挨拶回り
3日　本会議、関空議連
4日　厚労委員会
5日　観光に関する勉強会、本会議
6日　国土強靱化税制の整備・創設を支援する議員懇話会、棚田振興議連、厚労委員会、全日本トラック事業政治連盟懇親パーティー
7日　本会議
8日　地元挨拶回り

の自動運転がいよいよ実現の運びとなりました。ＢＲＴはバス・ラピッド・トランジット（Bus Rapid Transit）の略。道路上の専用道（バスレーン）に（連結車両を含め）走らせるバス高速輸送システムのことです。

大船渡線竹駒駅周辺の専用道を走る実験バス
（岩手県陸前高田市）

東日本大震災で被害を受けて不通になったJR東日本の鉄道の復旧・復興計画を練る中で、採算が取りにくい地方の鉄道路線に代わって新しい公共交通機関を中心にしたまちづくりを進めようと、国交省やJR東日本、地元自治体が協議して、２０１２年に気仙沼線（柳津～気仙沼）、２０１３年に大船渡線に導入されたのがＢＲＴです。その推進役の一人が、国土交通副大臣だった鶴保議員でした。

専用レーンを走るために渋滞や信号待ちが少なく安定した運行が可能な、安全とスピードが両立するＢＲＴ。コストも低く抑えられます。導入後、利用者も運行本数も増え、さらに昨年12月から、大船渡線のＢＲＴ専用道で「自動運転」の実証実験も始まり、今年1月に、その模様が報道陣に公開されました。

自動運転は運転手不足対策が主な目的ですが、専用道を使うＢＲＴは自動運転にも有利に働きます。実験の結果を踏まえ、他路線での実験や実用化の道も検討されるようです。

この自動運転も鶴保議員が旗振り役になってきた施策の一つで、内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策、科学技術政策など）としてイニシアチブをとって沖縄振興策と未来に向けた先端科学技術を組み合わせ、２０１７年に全国に先駆けて沖縄（石垣市）で実証実験を始め、さらに南城市の公道で小型バスを用いた走行実験も実現しました。公道でのバスの自動運行は全国初でした。

やはり過疎地における公共交通機関の維持は、和歌山県も含めて多くの市町村が抱えている悩みの一つですから、「自動運転のＢＲＴ」は近い将来、地方の公共交通機関の核にもなり得るとの思いから、鶴保議員は何年も前からこの分野に目を向けてきたのです。実証実験を重ねられる中、そう遠くないうちに社会実装化できるものと期待されています。

【鶴保のひとこと】その時にわが和歌山県でも迅速に対応できるように、今から備えをしておかなければ…とも考えています。

鶴保議員の声掛けで特殊車両勉強会

３月４日夕、鶴保議員の声掛けで「特殊車両に関する勉強会」が参院議員会館内の会議室で開催されました。

「特殊車両」は、大型トレーラーやクレーンなどに代表される幅や長さ、高さ、総重量が制限値を超えるような大型の車両のことです。道路を通行する際は「通行許可」が必要です。

ひとたび事故となれば大きな被害が出やすいことや通行により道路などが傷みやすいことなどから設けられている規制ですが、道路管理者（国や県、市町村）に申請してから許可が下りるまでに半年もかかるようなこともあるのです。これでは走行日の前日に配車依頼がくることも珍しくないビジネスの実態とあまりにもかけ離れている、との声を耳にして

一月

1日　新年祝賀の儀
2日　地元挨拶回り
3日　地元挨拶回り
4日　地元挨拶回り
5日　県連総会・年賀会、和歌山放送「県出身国会議員座談会」
6日　地元挨拶回り
7日　山梨知事選応援
8日　会館にて面談・レク
9日　公明党新春年賀会
10日　地元挨拶回り
11日　地元挨拶回り
12日　地元挨拶回り
13日　地元挨拶回り
9日　地元挨拶回り
10日　厚労委員会、資源エネルギー調査会、本会議
11日　ドローン議連
12日　会館にて面談・レク、日本旅行業協会「日本の観光を考える懇談会」
13日　沖縄振興調査会及び美ら島議員連盟合同会議、観光立国調査会インナー会議
14日　地元挨拶回り
15日　地元挨拶回り
16日　地元挨拶回り
17日　会館にて面談・レク
18日　住宅土地・都市政策調査会中古住宅市場活性化委員会
19日　会館にて面談・レク
20日　観光立国調査会インナー会議、財務委員会、自民党県議団東京研修懇親会
21日　地元挨拶回り
22日　地元挨拶回り
23日　地元挨拶回り
24日　地元挨拶回り
25日　ギニア出張（捕鯨外交）
26日　ギニア出張（捕鯨外交）
27日　ギニア出張（捕鯨外交）
28日　ギニア出張（捕鯨外交）
29日　ギニア出張（捕鯨外交）
30日　ギニア出張（捕鯨外交）
31日　ギニア出張（捕鯨外交）

きた鶴保議員は、問題意識を強く持ち、今回の勉強会の開催となったのです。

会には運送業に携わる民間業者の方が約20名、それに国交省や警察庁、和歌山県からも出席してもらい、規制のあり方などについて活発な議論が交わされました。総務大臣政務官の小倉將信衆院議員にも参加していただきました。

その中で国交省道路局から、種々の取り組みを進めているので、許可が下りるまでの期間がだいぶ短縮化されてきたとの説明もありましたが、運送事業者にすれば、まだまだビジネスの実態にそぐうものになっていないとの認識でした。

【鶴保のひとこと】乗り越えるべき点も少なくないかもしれませんが、引き続きこの課題に取り組んでいきます。

インバウンド推進役として外国人観光客の医療問題も

やはり鶴保議員がリーダーシップをとって進めてきた訪日外国人観光客、インバウンドの拡大。現在も、自民党観光立国調査会の事務局長として、さらに2020年訪日客4000万人を目指して諸課題に取り組んでいます。一方、インバウンド急増はさまざまな問題も発生させています。滞在中のケガや病気による診療費の未払いや病院との金銭トラブルなどもその一つです。その現状と対策について昨年3月発足の自民党「外国人観光客に対する医療プロジェクトチーム（PT）」の幹事長として、5月に羽生田座長らと菅官房長官に提言書を渡したことは昨年報告しました。外国人客が入国後も加入できる民間旅行保険の周知徹底や医療通訳の育成・確保などの対策を盛り込んだものです。

その後も、鶴保議員は、同PTの推進役で医師の自見はなこ事務局長（参院議員）などとともに外国人観光客に対する快適な医療の確保や小児科オンラインなど、さまざまな課題についての意見交換、検討を重ねています（写真は、昨年9月27日のPT）。

国会報告　国際交流

ドイツ、デンマークのAI活用の産業政策視察

参議院には、特に重要かつ緊急性のある調査事項に関して議員団を派遣して調査をするという「重要事項調査」の制度があります。鶴保議員は、その調査議員団（5議員と2調査員）の団長として、昨年10月1日～9日、ドイツとデンマークを訪問、両国の科学技術・イノベーションを取り入れた産業政策と人材育成などの実情調査、視察を行いました。

調査目的は、産業分野において、わが国産業の国際競争力が年々低下しているため、世界的に知られる「第4次産業革命（インダストリー4・0）」をめざした産業政策を進めているドイツをはじめとする欧州の取り組みを学び、また両国との協力関係を築き、わが国の競争力強化を政策面から後押しすることです。

鶴保議員は、内閣府特命担当大臣時代にも先端技術の視察に訪れたドイツでは、あらゆるものとインター

14日　地元挨拶回り
15日　東京挨拶回り
16日　地元挨拶回り
17日　会館にて面談・レク
18日　鴻池祥肇先生自民党・鴻池家合同葬
19日　地元挨拶回り
20日　地元挨拶回り
21日　会館にて面談・レク
22日　会館にて面談・レク
23日　会館にて面談・レク
24日　厚労委員会
25日　地元挨拶回り
26日　地元挨拶回り
27日　地元挨拶回り
28日　本会議、国会開会式
29日　本会議
30日　第3回自然と農山村を守る狩猟の集い、会館にて面談・レク
31日　本会議、資源エネルギー調査会理事懇、全漁連・大日本水産会「漁業の成長産業化に向けた誓いと感謝の夕べ」

二月

1日　捕鯨対策特別委員会・捕鯨議員連盟合同会議、漁港漁場漁村整備促進議連、本会議
2日　地元挨拶回り
3日　地元挨拶回り
4日　会館にて面談・レク
5日　フェローフォーラム
6日　クルーズ船観光振興議連、会館にて面談・レク
7日　本会議、会館にて面談・レク
8日　会館にて面談・レク
9日　地元挨拶回り
10日　第86回定期自民党大会
11日　東京挨拶回り
12日　しいたけ等特用林産振興議連、観光立国調査会インナー会議、会館にて面談・レク
13日　組込IoTイノベーション議連、資源エネルギー調査会
14日　資源エネ調査会視察（産業技術総合研究所つくばセンター）

ネット、AIをつなぐ社会を実現する「インダストリー4・0」の提唱者であるドイツ工学アカデミー評議会のヘニング・カガーマン前議長と会談。鶴保議員も「組み込みＩｏＴイノベーション議連」などで推進しているＩｏＴ社会の実現をめざして、やはり国際競争力が低下していたドイツで現状打破のために２０１１年に打ち出されたのがこの取り組みでした（それにならったのが日本の「ソサエティー5・0」です）。

また、ベルリン州におけるイノベーションを生み出す環境基盤の整備に向けた取り組みを行っているアインシュタイン財団を訪問し、シュトック総裁から、大学などとの共同研究体制や国際的な学術交流などについて説明を受け、意見交換。

ほかに世界的に知られる基礎研究機関を運営するマックス・プランク協会の会長やハンブルク州の経済省次官などとの意見交換や先端科学・産業政策の最前線の現場の視察と責任者との会談などを行いました。

デンマークでは、産業省の高官との会談などとともに「メディコンバレー」の視察も行いました。コペンハーゲンとスウェーデンのスコーネ地方に広がるバイオテクノロジー・医療関連企業の一大集積地です。

ほかにコペンハーゲンでは、カーボン・ニュートラルな社会をめざす取り組みであるスマートシティ関連施設の視察なども行いました。

調査団は、各訪問先で在留邦人や日系企業に勤務する現地の国の関係者との懇談、情報交換も行ってきました。調査報告は参議院のホームページでご覧になれます。

ドイツ工学アカデミー評議会のカガーマン前議長と（上）
アインシュタイン財団のシュトック総裁と（下）

再びロシアを訪問　観光立国調査会

鶴保議員が幹事長を務める自民党・観光立国調査会は、10月21日～23日、林幹雄会長を団長としてロシアを訪問しました。

鶴保議員は、その半年前の4月に、二階俊博自民党幹事長が率いる政官民の代表団のロシア訪問にも同行。

統一ロシアのみなさんと。
林会長（中央）、小泉龍司党国際局長と

そのときは、二階幹事長とメドベージェフ首相が会談、自民党とロシアの与党「統一ロシア」との政党間交流を進める協力協定の署名も行われました。その成果を踏まえての観光立国調査会のロシア訪問でした。

この時期の訪ロですから安倍政権の対ロ外交を後押しするものでもあり、議員外交、与党間交流をさらに進めることでも合意しました。

15日　地元挨拶回り
16日　海上保安友の会「防災に関する講演会」、お悔やみ
17日　地元挨拶回り
18日　会館にて面談・レク
19日　大阪・関西万博を推進する議連、会館にて面談・レク
20日　資源エネルギー調査会、会館にて面談・レク
21日　大沼保昭殿を偲ぶ会
22日　本会議、観光立国調査会
23日　二階怜子様を偲ぶ会、藤山将材後援会事務所開き

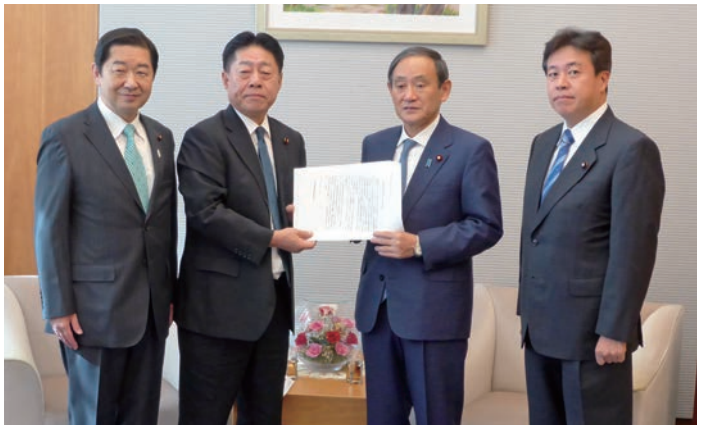
24日　天皇陛下御在位満三十年記念式典
25日　会館にて面談・レク
26日　鳥獣被害対策特委・鳥獣捕獲緊急対策議連・ジビエ議連合同会議、国対正副と各委員会委員長打合せ
27日　資源エネルギー調査会、会館にて面談・レク、水産経済新聞社「水産政策推進の集い」
28日　会館にて面談・レク

災害対策　インフラ整備を！

空港機能の強化を！　関空議連が申し入れ

昨年は6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月には台風21号に北海道地震…と列島各地が連続的に大きな災害に見舞われました。

台風21号では、高潮・高波によって関西国際空港が機能停止。流されたタンカーが連絡橋に衝突して空港が孤立する事態にも陥ったことはまだ記憶に新しいところです。



議員連盟の北側一雄会長代理、公明党の佐藤茂樹衆院議員と

鶴保議員が事務局長の関空の重要インフラとしての機能強化をめざす与党関西国際空港推進議員連盟（会長・二階自民党幹事長）では10月17日、総理官邸に菅義偉官房長官を訪ね、航空需要の回復や災害に強い空港にするための補正予算の活用と政府の一体的取り組みを求めました。これは同議員連盟が被災直後の9月22日に関空内で開いた総会による緊急決議にもとづいて行ったものです。その後、政府は補正予算を編成して対応をしました。

インフラとしての関空の役割はますます高まっています。

農水相に台風被害訴え　中村紀の川市長と

昨年の台風21号では和歌山県内の農業も大きな打撃を受けました。紀の川市では瞬間風速が秒速57ｍを超え、ハウスの倒壊や倒木、枝折れ、収穫前の落果（桃、キウイ、かんきつ類）など、農家は軒並み被害を受けました。しかも8月の台風20号につづくもので深刻な打撃となりました。

その台風被害への国の対策を求めて10月17日、紀の川市の中村愼司市長、岸本健和歌山県議とともに、吉川貴盛農水大臣を訪ね、被害状況の説明と陳情を行いました。（写真上）

もっと「118番」広めよう！　海上保安友の会で防災講演会

「安全で明るく美しい海」を守って日夜活躍している海上保安官の仕事への理解を深めるとともに保安官との交流を進める「海上保安友の会」（全国37支部）の和歌山支部（鶴保庸介会長）では今年2月16日、みなさんに防災意識を高めてもらうために講演会「地域防災を考える」を和歌山市のあいあいセンターで開きました。

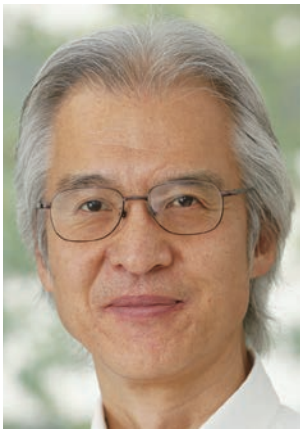
まず、鶴保会長が、「防災について考えるとともに海上での緊急通報番号『118番』をもっと広めてほしい」と呼びかけました。海難事故などに遭遇、目撃した時の「118番」です。

つづいて和歌山地方気象台の山田尚幸台長や海上保安庁第五管区海上保安本部の笹原昇海洋情報部長などが、南海トラフ地震などに備える情報収集や、災害から身を守る方法、災害発生時の海上保安庁の活動などについて講演を行いました。

地震や津波から家族や自分をどう守るか――。参加者はそれぞれの思いも胸に真剣に耳を傾けていました。

国際捕鯨委員会脱退は新たなるスタート

国際捕鯨委員会（ＩＷＣ）日本政府代表（東京海洋大学教授）　森下　丈二



昨年12月26日、菅官房長官の談話により、日本が国際捕鯨委員会（ＩＷＣ）から脱退し、本年７月から日本の排他的経済水域内で商業捕鯨を再開するとの決定が発表されました。１９８２年にＩＷＣが商業捕鯨モラトリアムを採択して以来、商業捕鯨の再開は和歌山県太地町を含む捕鯨にゆかりのある自治体や関係者の悲願であり、日本政府の基本方針でもありました。

鶴保先生は自民党捕鯨議員連盟のキープレーヤーとして長年にわたり捕鯨問題に取り組まれ、今回の商業捕鯨再開に至る決定でも重要な役割を演じられました。この紙面をお借りして鶴保先生の捕鯨問題におけるご尽力に衷心より御礼申し上げます。

ＩＷＣからの脱退は国際社会に背を向けるものとの批判もありますが、今やＩＷＣの反捕鯨国は、ＩＷＣ自身の科学委員会がミンククジラなどの資源が豊富な鯨種は持続的に利用出来ることを認めているにもかかわらず、科学を拒否し、捕鯨を拒否し、クジラは特別な動物であり一頭たりとも捕獲すべきではないとの態度をとっています。商業捕鯨モラトリアム採択以来35年を越える粘り強い交渉を続けてきましたが、鶴保先生も参加された昨年９月開催の第67回総会では、クジラを資源として捉える日本など持続的利用支持国の考え方と、クジラを絶対的保護のもとに置くとの反捕鯨国の考え方の共存を提案した日本の大胆な妥協案も否決されました。さらにブラジルが提案した、ＩＷＣはクジラ保護機関に進化したとのフロリアノポリス宣言が採択されるに至り、このように交渉が成り立たないＩＷＣとの関係について熟考した結果、脱退という選択肢を選ぶことになりました。しかし、この決定は新たな鯨類資源の国際管理に向けてのスタートです。捕鯨は日本のみならず様々な国で行われており、ＩＷＣがその管理を拒否する今、国連海洋法条約などの国際法に基づき、関係国と協力して新たな国際管理の仕組みを目指すことは日本の義務であり、使命です。

そしてそれこそが国際社会への貢献であり、クジラという海洋生物資源を将来にわたって保存しながら利用していくために不可欠な取り組みです。

今後とも鶴保先生が国内外において捕鯨問題への取組にご活躍いただくことを心からお願い申し上げます。

和歌山県の発展と林産業の活性化にぜひ力を！

かつら木材グループ　桂　榮生

鶴保先生には国政の場から和歌山県に格別のご尽力ご支援を賜り、木材産業に携わる一人としまして、心より御礼申し上げます。昨年は国会議員在職20年を迎えられ、この間、多くの要職を歴任し、さまざまな政策に取り組み大きな成果をあげておられることに敬意を表する次第です。

さて、和歌山県の林業では、県土の約４分の３を森林が占めていますが、近年、木材生産量は大きく減少しています。弊社としましても、新たな木材需要の創出を進め、木材製品の国内外での消費拡大に取り組んでいる中、木材加工施設の生産性向上や競争力のある品目への転換において、鶴保先生のお力添えのもと順調に進んでいるところです。また、林産物の物流環境では、鶴保先生はじめ県選出の国会議員のご尽力により高速道路が着々と延伸し、平成27年８月には私どもの町、すさみ南ＩＣまで供用開始となり、阪神圏への物流リスクが解消され、高速道路の重要性を実感しているところです。今後、紀伊半島を一周する高速道路が実現されるよう、引き続き鶴保先生のお力添えをお願いいたします。

近年では、木材産業者として新たな展開を求められており、弊社においても、今までの主力事業である製材業とプレカット業から生成できる新たな事業を進めているところです。この新事業の展開にあたり、鶴保先生にご支援いただいたお陰で、前社長（３代目）桂洸平が企画したプロジェクトを推進し、木材の有効活用への想いを実現化でき、製品としてＩＫＯＮＩＨブランドの木育事業であるヒノキのおもちゃ・家具、ヒノキオイルの芳香剤、ケボニー社と共同開発しているスギ・ヒノキの防腐強化加工材が販売できる状況となりました。

前社長は現状の木材産業から新たな木材活用への転換を図り、木材需要の拡大に取り組み始めた矢先、病魔により他界してしまいましたが、社員が想いを受け継ぎ、鶴保先生に応援していただいて事業が着々と進展しつつあることに感謝しているところです。

鶴保先生には引き続き、和歌山県の発展及び林産業の活性化へのご支援をいただきますようお願い致します。国会議員活動20年の政治実績を土台に、益々国政の場でご活躍されますことを祈念申し上げます。

活動報告

❶

❷

❸

全国に誇る紀州漆器まつりで

鶴保庸介議員は、毎年恒例の海南市の地域おこしイベント「紀州漆器まつり」「家庭用品まつり」の合同開会式の来賓として出席、お祝いと激励の挨拶を行いました。

紀州漆器（黒江塗）は、同市北西部の「黒江地区」中心に生産されている伝統工芸品です。会津塗（福島県）、山中塗・輪島塗（石川県）と共に、全国三大漆器・産地の一つとされている県を代表する名産品です。

漆器まつりの会場では、その盆や椀、箸、それに見事な蒔絵が施された正月用の重箱などが多数展示・販売されていました。

海南市はまた国内最大の家庭用品の産地です。漆器まつりとは別の会場（総合体育館）で、キッチン用品や洗濯・掃除用品、ガーデニング用品などの展示即売会が開かれ、やはり多くの人が訪れ、大賑わい、大好評でした。

合同開会式での鶴保議員は、県を代表する産業を支えるみなさんの研鑽、健闘を称えながら、さらに一層の発展を願ってエールを送りました。〈2018・11・3　黒江川端通り〉❶

仁坂吉伸知事4選を応援

今年（2019年）は統一地方選挙と参議院議員選挙が行われる「選挙の年」ですが、和歌山県では、ひと足先に任期満了に伴う知事選が去年11月（25日投開票）に行われました。鶴保議員も4選をめざした現職の仁坂吉伸候補を応援。写真は、投票日の2日前の最後の個人演説会で応援演説をする鶴保議員です。ともに和歌山県のために戦ってきた「同志」として、県民のみなさんに支持を呼びかけました。

ご存じのとおり、自民、公明に加え、国民民主、社民の各県組織の推薦を受けた仁坂候補は、共産推薦の対立候補に圧勝して4選を果たしました。さらに連携して進みましょう。〈11・23　和歌山市・華月殿〉❷

海南・下津の商工会議所で祝辞

海南商工会議所と下津町商工会が、平成31年の新春を祝いながら、その連携と交流を深めるために開催した「新年賀会」に来賓として出席。お祝いの挨拶を行いました。会場には、仁坂県知事や世耕経産相、石田総務相はじめ各界から多くの方が出席して、それぞれに祝辞や今年の抱負などを述べていました。〈2019・1・4　海南保健福祉センター〉❸

（15ページにほかの新年会「写真館」）

二階先生の国政と鯨の報告会に

太地町で開かれた自民党・二階俊博幹事長の「国政報告会」に出席して、挨拶と報告を行いました。

ほかのページでもふれているように、政府は昨年暮れ、IWC脱

私たちの約束

期待を超えなければ、
仕事ではない

鴻池運輸株式会社 Konoike Transport Co.,Ltd.　代表取締役兼社長執行役員 鴻池 忠彦

大阪本社 » 〒541-0044 大阪市中央区伏見町 4-3-9　TEL 06-6227-4600（代表）
東京本社 » 〒104-0061 東京都中央区銀座 6-10-1　TEL 03-3575-5751（代表）
グループ国内拠点数：193 ／ 海外拠点数：33　https://www.konoike.net/

KONOIKE GROUP

⑥

⑤

④

退を表明して商業捕鯨が30年ぶりに再開されることになり、その報に沸いた古式捕鯨発祥の地、太地町における会でしたから、当然、鯨中心の報告会となりました。IWCに何度も出席してきた鶴保議員も、その経験談や脱退にいたる経緯の説明や持論を展開しながら、エールを送りました。

太地町では、政府方針を大歓迎し、マスコミの取材に「地元の声を届けて官邸を動かしてくれました」と二階先生に感謝の言葉を述べ続けている三軒一高町長はじめ町議会の正副議長や多くの議員、それに商業捕鯨を始める漁業協同組合の組合長や町立くじら博物館の館長などがその後の食事会にも出席。会場は終始、感謝や決意や期待の声で溢れていました。

もちろんテーマは鯨だけではなく、高速道路をつなぐ建設促進那智勝浦協議会の小阪三喜子会長、太地町の更生保護女性会・北年美会長、婦人会・坂下富貴子会長なども出席して、さまざまな、またなごやかな懇談も。

〈1・19　太地町公民館〉❹

真砂充敏田辺市長を囲んで

恒例の「まなご充敏を囲む新春の集い」（まなご充敏後援会真清会主催）に出席。2年前の2017年に3期12年の実績が評価されて無投票当選を果たし、現在4期目の市政に取り組んでいる真砂田辺市長を囲む会です。

真砂市長は昭和32年生まれですから、鶴保議員より10歳上ですが、30歳の時に中辺路町の町議に初当選。国と地方の違いはありますが、同様に若い時から政治へのチャレンジを続けています。町議2期、同町町長（3期）、を務めた後、平成17年5月に田辺市や中辺路町、龍神村などの市町村合併によって誕生した新・田辺市の初代市長に当選し、以来、ずっと連携しながら市政に取り組んでいる「同志」です。

紀伊半島の南西側、県南部に位置する田辺市は、総面積1000平方kmを超える近畿地方一広い自然豊かな市です。「自然と歴史を生かした新地方都市・田辺の実現」を掲げて町づくりに取り組む真砂市長や支援者のみなさんにさらなる連帯を誓い挨拶！〈2・3　紀伊田辺シティプラザ〉❺

小森正剛氏黄綬褒章受章祝賀会

昨年11月2日発表された秋の褒章で黄綬褒章を受章された串本町の小森正剛さんの受賞祝賀会に出席して祝辞を述べました。

黄綬褒章は、「長い間業務に励んで国民の模範となった」人に贈られる褒章です。小森さんは、土木・建築業の小森組の代表取締役として、トンネル・土地造成・橋梁耐震補強など、県内のインフラ整備に邁進してこられました。鶴保議員は、壇上のご夫妻に、心からのお祝いと感謝の言葉を。なお、平成最後の秋の褒章は、県内では13人と1団体が受章。みなさんおめでとうございます。〈3・2　ホテル&リゾーツ和歌山串本〉❻

鶴の間 交流写真館

第5回「世界遺産サミットin姫路」後援会ツアー（11・12 姫路城）

税理士による鶴保庸介後援会定期大会（2018・9・29 和歌山市・ダイワロイネットホテル和歌山）

紀の川会総会（2019・2・17 ダイワロイネットホテル和歌山）

後援会青年部ゴルフコンペ（いなみカントリークラブフジ）後の表彰式（11・17 和歌山市・アバローム紀の国）

日本建設機械レンタル協会賀詞交歓会（1・17 東京・TKPガーデンシティPREMIUM秋葉原）

かつらぎ町商工会親睦ゴルフ（天野山カントリークラブ）の後の国政活動報告&囲む会（12・15 みよし）

SLEEP SELECT

（株）スリープセレクトは国内における
Sealy(シーリー)ブランドの製造から販売までを一貫して手がけています。

Sealy

sealy-jp.com

米国テキサス州シーリータウンで創業以来、約 135 年。60 カ国以上で愛用されています。

Sealy

ORTHOPEDIC ADVISORY BOARD

シーリー社は業界に先駆けて整形外科医との連携を図り、「ポスチャーテックコイル」の開発を進めています。

おもてなしのプロが選ぶシーリーの寝心地。世界の一流ホテルにも採用されています。

その他、シーリー関連ブランドである米国最高級ベッド、Stearns & Foster (スターンズ＆フォスター) も当社は取り扱っております。

株式会社スリープセレクト

東京都港区北青山2丁目13番5号青山サンクレストビル2F　TEL: 03-5413-6600(大代表)
札幌/仙台/長野/群馬/東京/東海/名古屋/大阪/福岡 その他、全国に営業所、ショールームを展開中

www.sleepselect.co.jp

2019年

集い
祝い
誓う

公明党新春年賀会（1・9 アバローム紀の国）

部落解放同盟和歌山県連合会荊冠旗びらき
（1・11 ダイワロイネットホテル和歌山）

自民党和歌山県連年賀会（1・5 アバローム紀の国）

県美容業生活衛生同業組合新年懇親会
（1・20 すさみ町・ホテルベルヴェデーレ）

（公社）和歌山県隊友会新年会
（1・20 ルミエール華月殿）

和歌山県看護連盟年賀会
（1・19 ホテルグランヴィア和歌山）

次の10年、20年に向かって「やるべきことをやる」との決意も新たに

「参議院資源エネルギーに関する調査会長 鶴保庸介君と明日の日本を語る会」東京で

関西後援会・鴻池会長（右中央）が乾杯前に謝辞。今後続く国際的イベントに向けた緊張感ある準備が必要と小此木前大臣。祝辞の伊吹元衆院議長、中曽根元外相、片山さつき内閣府特命担当大臣（写真上から）

「参議院資源エネルギーに関する調査会長 鶴保庸介君と明日の日本を語る会」が、昨年11月8日、東京・白金台のシェラトン都ホテル東京で開かれました。国会議員活動20周年を迎えた記念すべき年の「語る会」でした。

第一部では、鶴保議員が20年を振り返りつつ、「これからやらなければならないことの一端を本（『掟破り』）に書いたのでぜひ読んでほしい」と述べ、テーマの一つである「防災」の講師として直前の第4次安倍内閣の国務大臣（国家公安委員長、国土強靱化担当）、防災担当大臣でもあった小此木八郎衆議院議員を紹介。小此木先生は、災害が続き対応に追われた在任期間を振り返りつつ、犯罪は認知件数が減少したものの特殊詐欺や児童虐待、DVなど「弱い人が犠牲になる悪質犯罪が増えている」現状を強調。それを防ぎ、なくすために政治の役割とともに国民一人ひとりの防災・防犯意識が重要と説きました。

会場には、伊吹文明元衆院議長、中曽根弘文元外相、桜田義孝東京オリンピック・パラリンピック担当大臣、小倉將信衆院議員、自見はなこ参院議員はじめ多くの先生方、支援者のみなさんに駆け付けていただき、第二部懇親会を含め、鶴保議員の今後のさらなる活躍と飛躍に期待する祝辞もいただきました。議員や後援会からは、その思いをしっかり受け止めての謝辞を。

皆様、本当にありがとうございました。

編集後記

A．平成最後の『鶴翔』になりましたね。

B．この号が発行された時には、もう新しい元号が発表されていますよ。

A．テレビ番組などでも、いろいろな人が新元号を予想していたけれど、少しは的を射たものもあったでしょうか。

B．どうでしょう。ただ、これまでの元号は中国の古典から取ってきたけれど、今回は日本の古典からも可能ということで、これもどうだったか明らかになっているはず。ただ、平成に改元された前回は、昭和天皇のご容態の悪化・崩御と続き、社会全体に暗い自粛ムードが広がっていたけれど、今回は、今上天皇に対する感謝の念を抱きながら、徳仁親王のご即位、新時代の幕開けとなったので、落ち着いた祝賀ムードのなかで迎えることになりました。

A．それに、新元号の下、私たち自らが新しい時代を築くとか切りひらくというような気概を持ったり、持つきっかけにしたり出来るといいですね。（K）

●写真による活動報告も行っています。

ホームページもぜひご覧ください。
http://www.tsuruho.com/

鶴保庸介事務所

〒100-8962　東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館313号

TEL.03(6550)0313　FAX.03(6551)0313
E-mail：info@tsuruho.com